

ゼンエロ
ZENERO

ゼンゼロ
イチャラブ
エロ合同
R18
VOL.2

ZERO
NON-FICTION
EROTIC
BOOK

2





P.02-
P.10

エレン

中村六翅



P.11-
P.14

アストラ

92M



P.15-
P.24

雅

芝石ひらめ



P.25-
P.28

**シーザー&
ルーシー**

くれりて



P.29-
P.34

儀玄

まるごし



P.35-
P.40

ビビアン

OMZR



P.41-
P.44

イヴリン

ほみなみあ



P.45-
P.54

柳

まめでんきゅう



P.55-
P.64

朱鷲

右端



P.56-
P.70

リナ

Negresco



P.71-
P.74

トリガー

菊のすけまる

主催・編集 やもげ

儀玄 P.75

ZENERO
Ichalove
Ero Gado





Presented by
中村六翹

エレン！落ち着け！
何をするつもりだ!?

ある日
とあるホロウの中

わかんないけど…
抵抗しなきゃ
痛くはないと思う…から

いいから…
大人しくしてて…

身動きが…

くっ…

十



だけどエレンがエーテリアスの
ガスを浴びてしまい…



なんてことない依頼だった
僕らは苦もなく敵を排除して



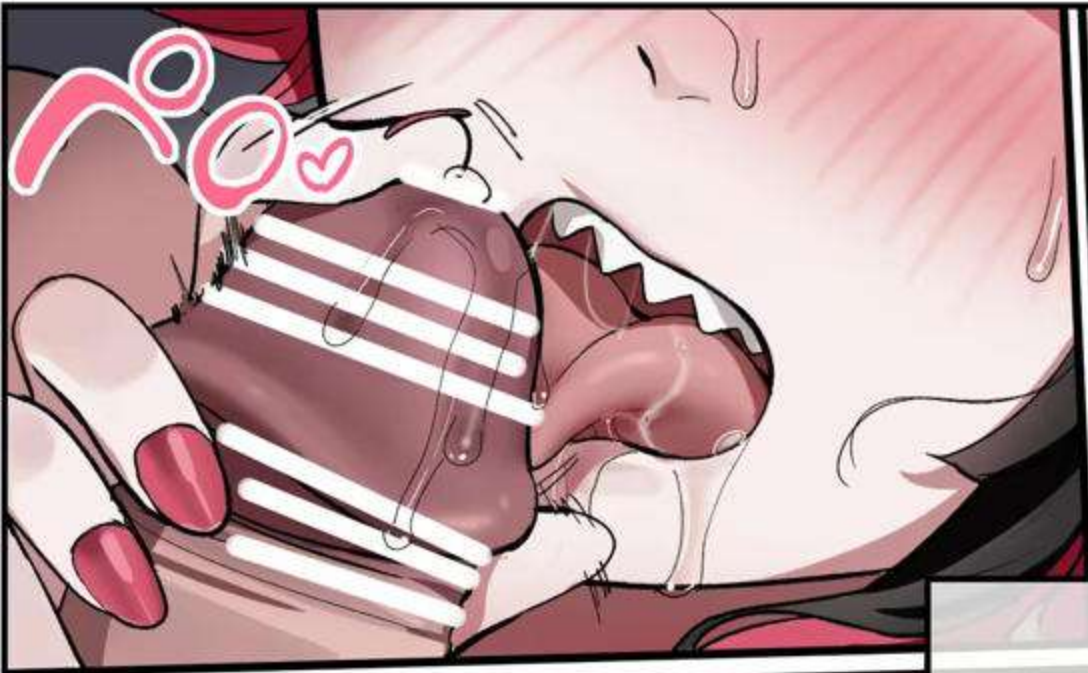
変な匂い...

僕の腕力では
彼女に抗えない

気持ち良すぎて
思考もぼやける...っ！

エ、エレン！
その吸い方は...くっ！

で...出るっ



ちよっと落ち着いた…
けどまだ足んない

あはあ

ん…

エレン!

それはダメだ!
エーテリアスの毒に
負けないでくれ!

うっさー!

プロキシは黙って
腰振ってて!!

んっ

あ

ん



エ、エレンの膣内に...

ぎゅうっ...

ぽい

入った♡

ぐわっ♡

はあ?

そんな事言って
ナカでおつきく
してんじゃん
変態♡

ダメだエレン...

こんな事...っ



あ、あんた
今それ言う!!

嬉

こっちが今まで
どんな思いで...

カリ

ハッ

ズッ

カ...

ちよっ...
舐めるな!!

ペロ

ほむ

ぶっ

びちゃ♡

くっ♡

9

700

また♡

カ

女帝

9

子宮当たって……っ

ゴッ!



はっ...

熱い...

ん...

ト...

コ...

それは...

何？嫌なの？

依頼終わってから
もう一回ちゃんと言って

しゅぽっ♡

す、すまないエレン
立てるかい？

さっきの話...

じゃないと噛み殺す...から

うっ♡

それで、また仕事を
抜け出して僕の部屋に？

悪い人だな
イヴリンさんには
同情するよ

あら
アキラだって
こんなにおちんちん
かたうくしてるくせに
❤️

Presented by
92M

イヴには
ナイショよ
❤️

インスピレーション
が欲しい時は

この方法が
一番なんだから
❤️







もう...
イヴったら
せっかちなんだから
じゃああと
もう1回だけ

出なくて
いいのかい?

...アストラさん
ずっとスマホが
鳴ってるけど...

——時に

30分以上に及ぶ激しい
性行をした場合……
一回につきメロン半球
のカロリーを消費する
そうだな



つまり……
ある種の修行に
なるのでは

——確かに
セックスダイエツト
なんてジャンルを耳に
したことはあるけど

雅さん
また妙な事を
言い出したな



**Presented by
芝石ひらめ**

……お前の言う
ことも最もだ

身体を動かす
というだけなら
セックスの必要
はないと思うな

だが……私は思いついた
修行は試してみたい性分
でな

……本気
かい？





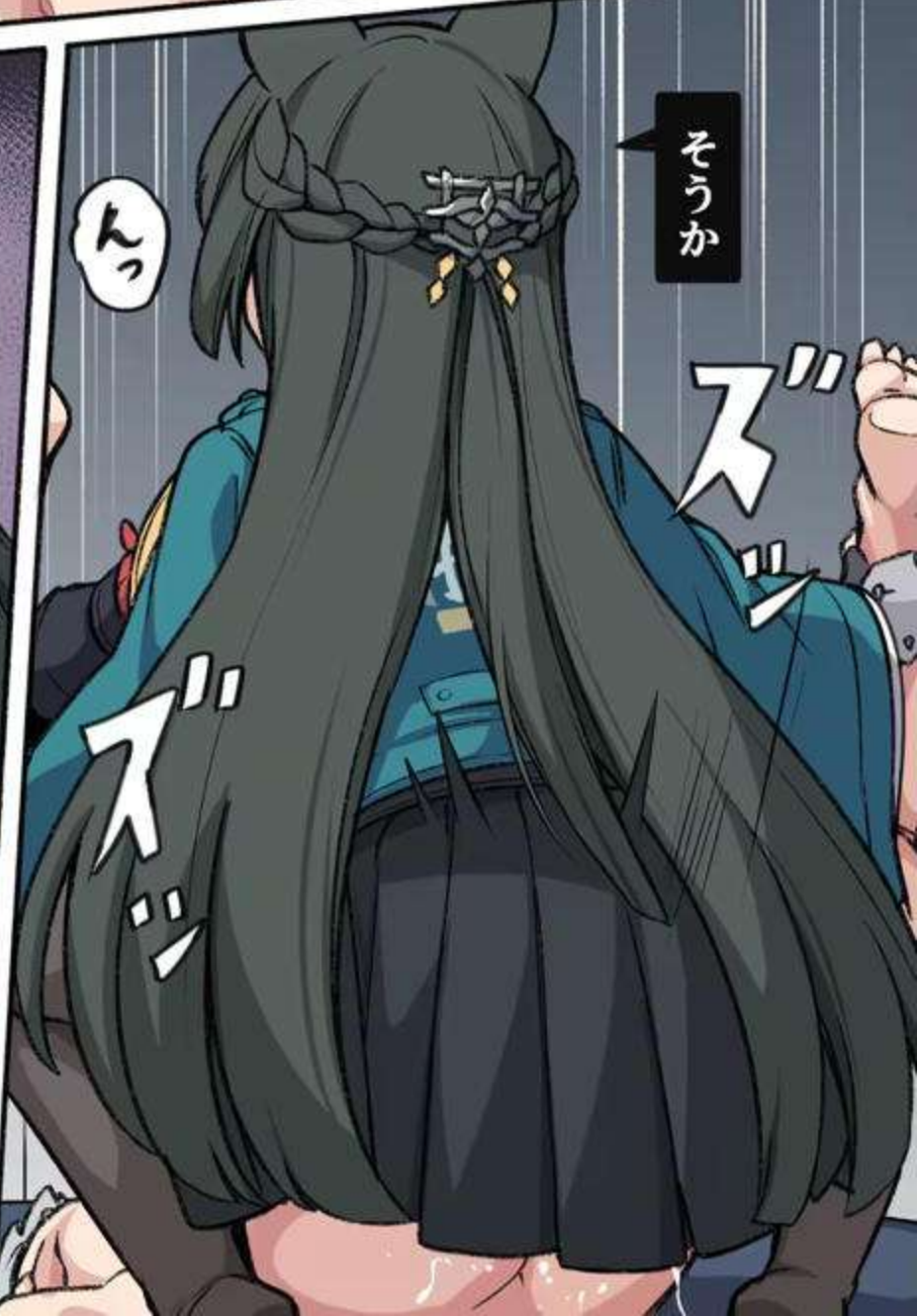
女性が上位になって
動くことで全身の運動
になると聞いた

一体誰に聞いた
のか問い質したい
ところだけど

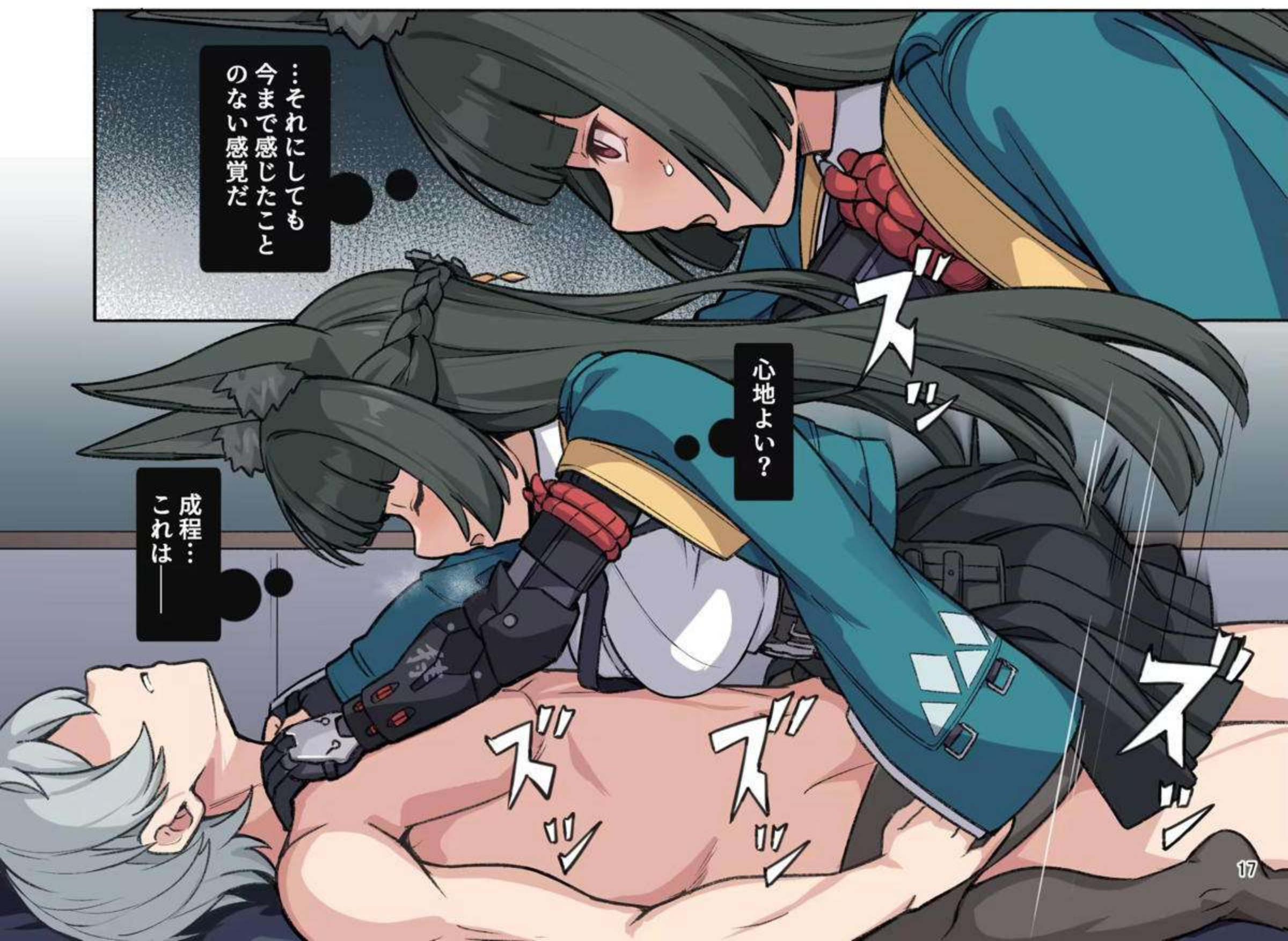
この体位は少し
屈辱的だからなんとか
ならないかい？



私としては
足腰にかかる負荷
が好ましいのだが



そうか





快樂に耐える
修行――



雅さん
ちよつと待って
欲しい

そんなに
激しくされると



雅さん：そう言われると僕も引き下がるわけにいかない

少し：早い気がするな

一回——これで

はあ

はあ



服を全部
脱ぐのか?

沢山するなら
そのほうがいい

そうか
限界まで追い込む
のは大事だ
受けてたとう

修行脳
だなあ...

バーサ

ズ"

プ

プ

ズ'



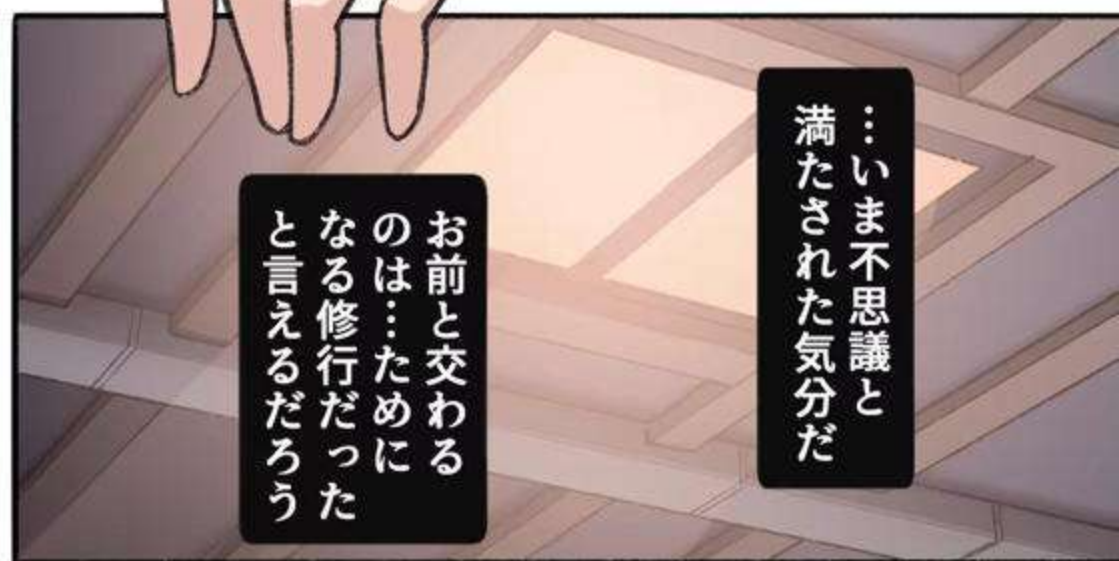


お前にしか
頼めないことだ

また頼む

——まあ
雅さんがいい
ならいいかい

…体力
つけよう



…いま不思議と
満たされた気分だ

お前と交わる
のは…ために
なる修行だった
と言えるだろう



…できれば
修行どうこうでなけ
ればいいんだけど



どこで会うんですの？

マッサージなんかどうかな？

私とマッサージですって...？



プロキシさんからの
お誘いがあったって来てみれば

ガーン

なんでシーザーまで居ますの!?

偶然遊びに来てて...

わりいなルーシー
先にしてもらってるぜ



Presented by
くれりて

ワタクシのココ、大分
凝ってますので.....

お先にお願
い
できるかしら？

よ、よしっ
任せて...ッ

はぁ...

マアア...♡



リ、リンパがねっ
通ってるからねっ

...マッサージってのは
そんなところも触るんだな

シーザーったら、状況を
理解してませんわ...ッ



ちよつと
プロキシさんっ

こうなったら...







まったく
お前さんは…

また夜更かしして
眠れないのかと
心配して来てみたら

こんな
破廉恥な動画を
見ているとは

こんなモノを見たら
次の日の修行に
支障が出るだろうが

ハイ…

まさか
ノックもせずに
入ってくるとは…

弟子の健康管理も
師の責任に
なるんだからな

あ、あの…
ムラムラしてしまうのは
師匠のせいでもあるって…

何……？

適当観に住み始めて数週間…
夜中にしていたオナニーが
ついに儀玄師匠にバレてしまった…

ハイ…

Presented
by まるごし

し、
師匠…!?

私の胸が気になって
修行に集中出来ない…
そういう事だろう？

仕方ない
弟子だ…

お前さんの為なら
これくらい
してやらんでもない…

どうだ？
動画と同じように
してるつもりだが…

お前さん
こんな事されるのが
好きなのか…？

や、やば…っ



ご、ごめん
師匠...

ちゃんと射精
出来たようだな...
気にするな

ドク

ビクッ

ビクッ

胸でされるのが
望みだったんだろう？
...満足したか？

...

し、師匠
僕まだ...

ぐり

ぐり

ぐり

どうした...？
まだ私にしてほしい事が
あるのか？

はあ

はあ

ガッ

ふむ...
射精というのは
一回では
物足りないのだな...

まさか弟子に
こんな
欲情されるとはな…

ちゅ
らん

ちゅ
ぽん

ちゅ
らん

私の乳なんか
吸っても
美味しくないだろう

師匠は
とても魅力的な
女性だよ…?

正直すごく
興奮してる…

お前さんは
本当に
口が達者だな…

僕は本気だよ
師匠…

ゴッ

師匠と一緒に
気持ち良く
なりたんだ…

わ、私は
いいって…

こんな状況に
したのは
師匠だからね?

んん

んん

す..



本当に
するのか…？

前にも言ったが
私はこういう
経験無いからな…？

…だからその
お手柔らかに頼む

し、師匠…
可愛すぎる…！！



だ、出したくなったら...
ごごごごも...

師匠...っ

んっ

ドッ

ドッ
んっ

ドッ

んっ

ズ
ン
ン

ズ
ン
ン

んっ
アキラ



はー

...次からは
一人でコソコソせず
師匠の私に
相談するんだぞ？

んっ

はー

んっ

んっ

お前さんは
私の弟子
なんだからな...

はー

Random Play 00

「ぱ……
「ハエトーン」様……
お戯れを……

突然あんな
エッチな自撮りを
送ってきて：

襲つてくれと言つてゐるようなものじゃないか！

抱
bao

くっ…
脱がしにくい服だな

全部自分で脱いで貰ってもいいかい？

…はい♡

ビビアンも
本当は期待
してたんじや
ないか？







「パエトーン」様っ♡

はげしっ♡

ん♡

ふ♡

ビビアンが
可愛すぎるのが悪いっ

ぽん♡

そんなっ♡
可愛すぎるなんて♡

あ♡

あ♡

は♡

ぽん♡

はちゅ♡

はちゅ♡

いお♡

ずち♡

ずち♡

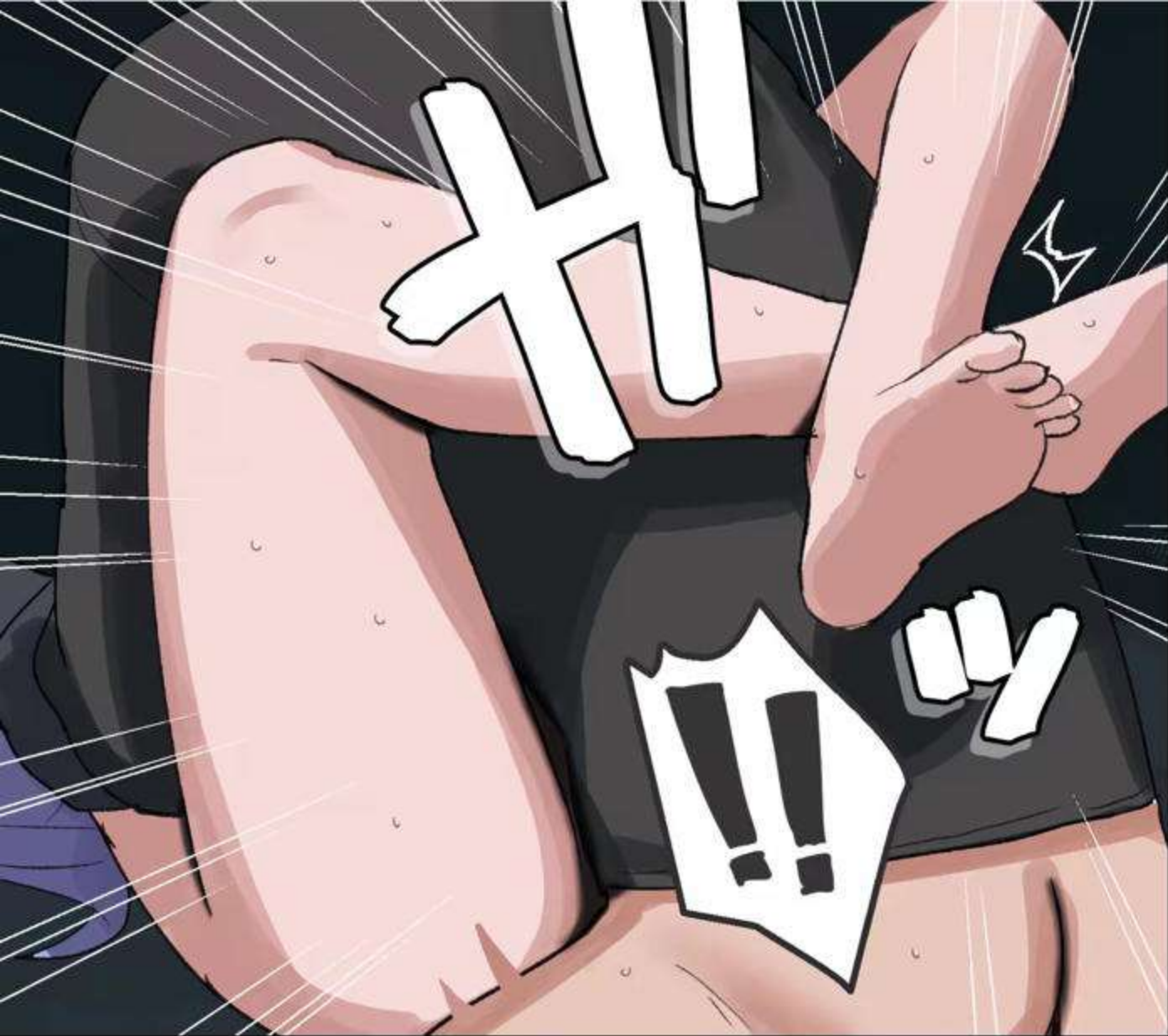
失礼
しましたっ

わたしっ
はしたない声をっ

お♡

ずち♡

たまらないよ！
もつと
聴かせてくれっ





お疲れさま
ビビアン...

.....
夜はまだまだ
これからなのです

積みもりに
積みもった
あなたへの愛

全て
受け止めて
もらうのです！

バイトで鍛えた
スタミナでたつぷりと
搾り取られたのだった...



あ
イヴリンさ...



ん
あー
すごい勢いで
飲んでたし
溜まってたのかな...



おーい
イヴリンさん

水を持って
きたよ...

Presented by
ほみなみあ
※カプセルホテル



ちよ...
ちよ...
まだ酔って
るのかい?



うわっ!
ん







Presented by
まめでんきゅう

いつ頃からか
柳さんの
ストレス発散法が



月に一度

溜まりに
溜まったものを

ちゅ、ちゅ、

ボクにぶつ
なっというもの
にける

貴方も……
溜め込んでい
るみたいですね？

ボクは
溜め込むのに
苦労したよ

では……

あっ!?



あんっ

セ
ク
ス

すごい
射精…

ふふっ

ハ
ッ

チ
ン

まだ
おっぱい
の中で
暴れて
います

んっ

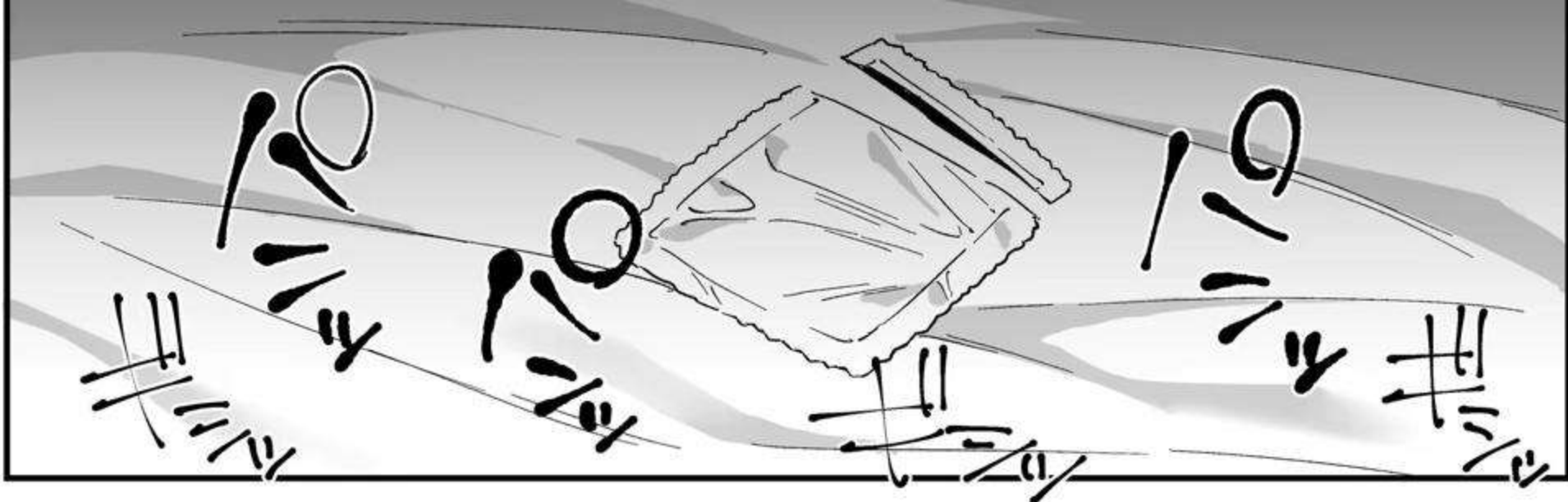
メ
ネ

ハ
ッ

すっごく
ドロドロで…

いやらしい
ニオイ♡

チ
ン









Presented by
右端



最近この癖の
弊害が
深刻でして…

人に触られると
無意識に反撃
してしまう癖を
直したいんです



例えば？

デュイの
おやじさんに
お店の利用を
渋られました

私が通うと
ボデイの修理費が
10倍になる
そうです
かわいそう
すぎる…

おやじ
さんが



…花○薫の
モノマネ？

違います

誰ですか
その方

ああいや
旧時代の…

なら何だって
奇しくも同じ構え
してるんだい？

ですから
お願い
します!!

反撃を我慢する
訓練に協力
してください!!

ええ…

良いけれど
セスとかの方が
適任じゃ…

耐久的に

ジェーンが
先回りして
連れ出しました

流石だなあ

触るだけで
大丈夫
なんです!!

お願い
します!!

それが
一番怖いん
だけどな

…じゃあ…

朱鷯さん
頑張れ!!
頑張れ!!

ぐぬぬぬ
うぬう!!

すごい

すごい
耐えてる

ふへへ…

何なんだ
その反応

だい…
大丈夫です！

他の場所も
お願いします

何を見て
大丈夫って
言ったんだい！？

それに
他の場所
って…

PUBSEC

…
じゃあ…

て

ズン

なッ！！

なななに
してるん
ですか！！

おに♡

PUBSEC

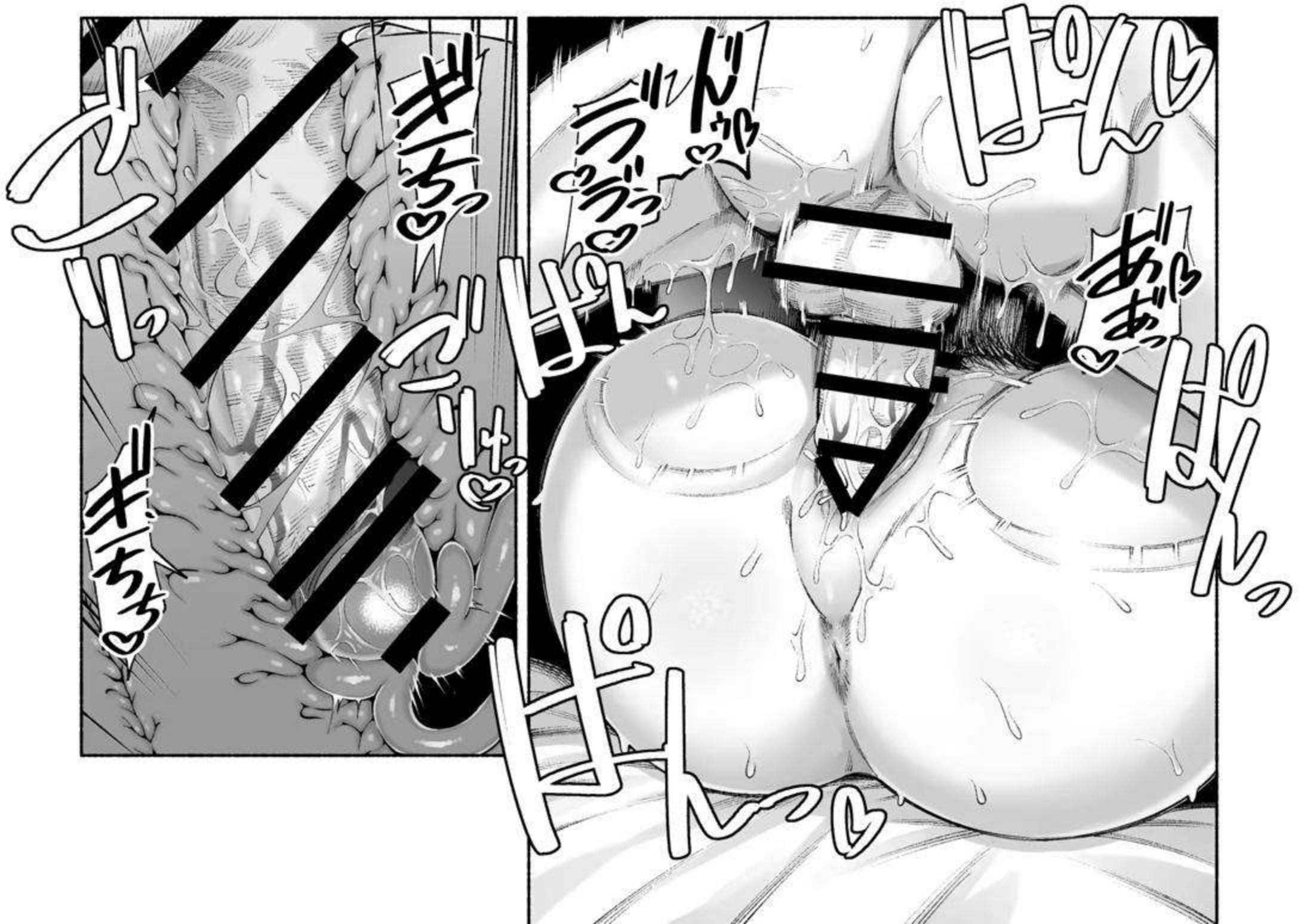
おに♡

い…
いやっ！！

他の場所って
言うからつい…

ななな
ななな







◆訓練失敗—!!

デリバリーヘルス
『ヴィクトリア家政』より
参りました…♡

うふふ…店長さま
宜しかったのですか？
若いおなごでなく
こんな年増女を
ご指名とは…♡

っリナさんっ…!!
僕はリナさんしか
見えません!

まあ♡
店長さまったら
大胆ですわ♡

ハアハア…っ
いつもと下着
違う…!!
エッロ…

僕メイドスカートの
中に顔突っ込むのが
夢だったんですね

あらあら♡
店長さまは変態さんで
いらしたんですね♡

あんっ♡リナの
恥ずかしい場所
たくさん嗅がれ
ちゃってますわ♡

では早速「即尺」
オプション対応させて
いただきますわ♥

しかし店長さま…
ヴィクトリア家政を
通じてでなくとも

仰って頂ければ
私個人として
ご奉仕いたし
ますのに…♥

プレイ料金

違うんですリナさん
お金を払うことによって
変態的な欲求も満たせる
客と店側の…
そういうプレイを
僕はしたいんです

かしこまりましたわ♥
では今宵リナは店長さま
専用の性処理メイド…♥

どうかリナのおクチに
ご褒美をたっぷりと
くださいまし…♥

ぷりっぷりのザーメン
ありがとうございます♥

ふふ…夜は
まだまだ
これから
ですわ♥



リナさん好きです：貴女の為に
ver1.3(2024年11月)までの間
ずっと指名権得る為に恒常にしか
ポリクロ使ってませんでした：

まあっ♡

店長さまったら♡
そんなに情熱的に
求められたら：

リナも燃えてきて
しまいますわ♡

おっぱいでっか：♡
リナさんのデカパイに
挟まれて出るっ♡出ます♡

あんっ♡

はっ

はっ

またこんなに
ご褒美をいただいて
しまいました：♡

さて店長さま：もうひとつ
「コスプレ」オプションも
ご指定くださいましたわね♡

お楽しみに：♡

はいっ♥店長さま
リクエストの昔使った
運転用ミニスカメイド服
ですわ♥

店長さま?

いいや…こんな
おっぱい丸出しで
接客してたんですか!?

店長さまとの
エッチ専用
にあつらえ
直しましたわ♥

はあはあ…!!
エッチ専用…!!
僕専用熟メイドの
まんこうつま…!!

てっ…♥店長さまったら…♥
熱烈なクンニリングスっ♥

リナはもう
準備万端です♥
どうかご慈悲を
くださいまし♥



リナさんの
まんこ
熱っ……!

ドロッドロに
とろけてます……!

ほおっ♡
お♡

おおっ♡

は……はいっ♡店長さまの
若さみなぎる硬あゝい
おちんぽでほぐされて……♡

年甲斐もなく
発情しまくって
おりますっ♡

嬉しいですっ♡
リナさんも僕を
求めてくれてっ♡

はい……♡
店長さま♡

欲しいんですねっ
年下の小僧の
青くっせえ精液っ♡

はい……♡
はい……♡



店長さまっ♡
どうか
ご慈悲をっ♡

リナさんっ♡もっ
エッチに言っ♡
どこに何が欲しいん
ですかっ♡

あ……あんっ♡
いけず……♡

みつともなく繁殖した
がってる年増女のナカに……♡
ご褒美の種汁をどっぷり
注ぎ込んでくださいましっ♡

エ……エロすぎ……♡
出るよ……出るよっ!!



き…気持ちよかった…
リナさん…ありがとう…
好き…

私も本気でイキまくって
しまいましたわ♡
お恥ずかしい♡

いかがでしょうこの後は…
年増メイドのアナルも
ご賞味なさっては…♡

AF オプ
言いで
頼もう！
治安局であるぞ！

本気汁漏洩と肉棒浣腸罪
の疑いで逮捕します!!



本気汁漏洩と
肉棒浣腸罪!!



…トリガー

…

これは一体
どういう事だい？

チチチ…

あっ♡

プロキシさん

どうか
しましたか？

お気づきに
なるのが
早いですね

流石です…♡

Presented by
菊のすけまる



僕と師匠と快樂に耐える 修行をする話(挟射編)

Presented by やまけ

「邪魔するぞ」

夜も更け、日付が変わろうかという頃。

儀玄師匠はひょっこりと僕の部屋へ顔を出した。

「すまん、夜遅くに。もう眠っていたか？」

「師匠！ いや、ちょうど横になったところだよ」

慌ててベッドから起き上がろうとする僕を、師匠はそつと手で制す。

「ああ、そのままでいい。その方が都合がいいからな」

「都合？」

疑問符を浮かべる僕をよそに、師匠は静かにベッドへ腰を下ろした。白檀の香りがふわりと舞い、彼女の存在を感じさせてくる。

「わざわざこんな夜更けに来るなんて……何か他の皆には知られたくない相談事か？」

「まあ、そうだな。他の皆に知られるべきでない事は確かだ」

まさか讃頌会絡みか、とシリアスな空気をまといかけた僕に、しかし師匠は曖昧な返答をして。

「今日来た理由は、お前さんのことについてだ」

「!?」

そのほっそりとした指先で、弟子の股間を突いてきた。

「し、師匠!?」

「お前さん、私の胸が気になって修行に集中できていないだろう」

「なっ……!?」

「凶星か。そんな事だろうとは思ったがな」

呆れたように息を吐く師匠。

その呼吸に合わせ、双丘がふるふると揺れる。

る。

雄大な山脈の如きそれに、敬虔な弟子としては決して意識すまいと努力しているのだが、その肌の眩しさもあり、男としてはどうしても視線が奪われてしまう。

……彼女に視線を向けてしまう理由は、それだけではないのだけだ。

「申し訳ない。弟子として情けない限りだ」

「構わん。若い男ならやむを得ない事だ。

……いつか話したと思うが、雲嶽山の教えでは色恋などを禁じておらん。何事も過度に禁じてしまえば、それもまた執着となり得るからな。だが、それが原因で修行に身が入らんようでは困る。そこで、だ」

言って、師匠は突然僕の手首を掴み。

「っ!?」

ぎゅつと、こちらの手のひらを己の胸に押し当てた。

「し、師匠!?!?」

「あまり大声を出すな。他の弟子たちが起きるぞ」

「くっ……」

「お前さんには、私の胸に慣れてもらおうと思っただけ。ただの脂肪の塊だと思える程に慣れてしまえば、胸への執着を失い修行にも身が入るだろうからな」

平然と言いながら、師匠は僕の手を胸に押し当ててくる。

その乳房は五指を柔らかく受け止め、むにゅむにゅと形を変えた。雲のような感触に、股間が熱を帯びていく。

「硬くなっているな。どれ、楽にしてやろう」

「ちよっ……」

儀玄師匠が振れるや否や魔法、いや術法のように道着のズボンはずり脱がされ、脈打つ陰茎が天を向いて屹立する。

「し、師匠！ 一体何をして……うあっ！」

「ふふ、びくびくと震えているな。お前さんに似て愛い奴だ」

混乱する僕をよそに、優しくあやすように肉棒を扱ってくる師匠。

師匠に突然下半身を露出させられるという異常事態だというのに、その甘い快樂に思考は乱され、ロクに反抗する事もできない。

「このまま一晩中揉ませてやってもいいが、あまり効率がいいとは言えん。そこで、お前さんの好きな事をしてやる事にした。確か、

ぱいずりと言ったか」

「な、なんだって？」

とんでもない単語に思わず耳を疑った。あの師匠の口から、「パイずり」という言葉が出たのか？

「お前さん、好きなんでしょう？ 経験はないが学んでおいたぞ。お前さんが持ち込んだえーぶいとやらでな」

「!? そんな馬鹿な、念入りに隠しておいたはずだ！」

「お前さんがどこにびでおを隠しているかなど、術法を使えば筒抜けだ」

「くっ……弟子にプライバシーはないのか!?」

「そう嘆くな。師弟とはそういうものだ」

弟子の追及を聞き流しながら、師匠は僕の足元で正座して。

「そら、膝に乗せるぞ」

そして、ぐいっとなおこちらの下半身を持ち上げ、己の膝に乗せた。

俗に言う膝上パイずりの体勢だ。動画で勉強したという話はどうか本当らしい。

反り立つ肉棒の背景には豊かな双丘が鎮座しており、その光景に情欲が昂らされてしま

う。

「ほう、また大きくなったか。どうやら期待しているようだな」

「う……」

「いいさ。期待に応えられるかは分からんがな」

凶星を突かれ頬を熱くする僕に、師匠は慈愛に満ちた眼差しを向けてくる。

なんだ？ 僕は夢でも見ているのか？

師匠の胸に下卑た視線を向けた挙句、彼女の淫らな夢を見るとは。

これでは弟子失格だと意気消沈したものの、その思考は刹那で吹き飛ばされた。

「滑りをよくするため、ろーしゅんを塗り込むんだったか。雁首の部分まで念入りに、だ」

「くあっ……！」

どこからか取り出した瓶からとろりとした液体を肉棒に注ぎ、それを馴染ませるべく師匠は手を幾度も上下させた。

ひんやりとした液体と彼女の手の平の感触は何とも耐えがたいもので、夢かという疑念はその思考回路ごと吹き飛び、溢れんばかりの快樂は声となって外の世界へと漏れ出していく。

「し、師匠……っ！」

「ふふ、可愛らしい声を上げるものだな」

そんな僕を、彼女は穏やかな笑みで見つめ、戯れのように鈴口を弄んできた。

かりかりと指先で責められ、たまらなくなり身が幾度も跳ねる。

「そ、それ、やばい……っ」

「そうか、やばいか。この様子なら、胸で挟むまでもないか？」

「っ……」

「そう悲しそうな顔をするな。ちゃんと挟んでやるから」

「……っ！」

一瞬浮かんだ落胆を見抜かれ、顔がかあつと熱くなる。

欲望を見抜かれ、支配下に置かれ、子をあやすようにコントロールされている。

その情けない有様に、しかし僕はどこか快樂のようなものを覚えつつあった。

「お前さんのびでおでは、服は着たままもの」と脱いだものがあつたな。どちらがいいんだ？」

「そ、それは……」

「言えって」

「……き、着たまががいい。でも師匠、汚れが」

「気にするな。洗えば済む」

言って、彼女は己の双丘を両の手で持ち上げ。

「では、挟むぞ」

そそり立つ肉棒を上からゆっくりと飲み込んだ。

「くっ……あぁっ！」

先端が乳肉をかき分ける感触に、脳内でパチパチと火花が散る。

感触だけではない。視覚においてもその光景は暴力的だった。

「お前さんの、すっかり隠れてしまったな。」

恥ずかしがり屋のようだ」

クールな面持ちに淡く笑みを浮かべる師匠。

その有様はいつもの彼女と変わらぬ優しさを湛えていて、だからこそ、その真下で起きているパイズリという事象の淫らさが際立って感じられた。

あの儀玄師匠の胸に挟まれている……！

幾度となく盗み見てしまっていたその豊かな胸に、己のそれが包まれている。

「どうした？ まだ動かしてもおらんぞ？」

「っ……く、う……っ」

「挟んだだけでこれか。よほど好きなんだな、胸が」

危うく達しそうになったのを、なけなしの意地で耐える。

「すぐさま射精しても修行にならん。慣れさせるためにも、少しずつ刺激を与えていくでしょう。そうだな……これはどうだ？」

言って、師匠はビキニめいた普段着、その陰陽を模った飾りの辺りを持ち、ゆさゆさと上下させてみせた。

手で押さえられてもいない、ただ胸が上下

に揺れているだけの状況だが、その圧倒的な質量で乳圧は十分発生しており、ふるふると揺れる乳房も相まって僕に凄まじい快楽を与えてきた。

「くっ……あぁっ……！」

「この微弱な動きでも声が出るか。お前さん、少し敏感すぎるんじゃないか？」

「し、師匠の胸が気持ち良すぎて……っ」

「まあそういうことにしてやろう。そら、胸であやされて気持ちいいな」

「……っ！」

赤子をあやすような言葉すら、スパイスのように快楽を高めていく。

「もう出てしまえそうか？ 私は構わんぞ？ せっかく学んだばいずりとやらを披露できないのは残念だが」

「っ……まだ、だ……！」

男の意地か、あるいはパイズリへの執着か。

必死に耐えた僕に、師匠は笑みをこぼす。

「ふふ、耐えるか。そんなに私にばいずりされたかったのか？ 助平め」

「う……」

「林檎のように顔を赤らめて。まったく、愛いやつだな、お前さんは」

微笑の後、谷間の中に隠れた肉棒の先端を師匠は指先でくすぐる。

「し、師匠……っ！」

「ここまで耐えた褒美だ。ちゃんとしてやるとも」

「！うぁっ……！」

そして、胸を両手で持ち、肉棒への乳圧を強めた後。

「そら、動かすぞ」

ゆっくりと、その双丘を上下させ始めた。

「くっ……あぁっ！」

「念願のばいずりだ。気持ちいいか？」

「す、ごい……！ 意識が飛びそうだ……！」

ているだけだぞ？」

「でも、儀玄師匠の胸だ！」

「！……そうか」

話しながらも一定のペースで愛撫は続く。

「我が胸がならなかなかい……腕力の修行になるかもだ」

たぶたと絶え間なく行われるパイズリ。

機械的にすら思えるそれが、甘やかな刺激とのギャップでより興奮を昂らせてくる。

「少し刺激に慣れてきたか？ なら、変化球だ」

「っ!? うぁぁっ！」

互い違いに胸が動かされ、今一度声が漏れる。

豊かな乳房はむにゆりと形を変え、先ほどとはまた違った刺激を与えてきた。

「師匠……っ！ これ、やばいっ……！」

「出しても構わんぞ？ 私の身体はお預けだ」

「！くっ……！」

必死に耐えるも、ダムは決壊寸前だ。時には揃えて、時には互い違いに。

波状攻撃のように、師匠は責め方を変えてきた。

「ん？ ここがいいのか？」

「!? うぁぁっ！」

肉棒全体に乳肉を馴染ませるかのようによつくり包むように扱われたかと思えば、今度は雁首の辺りを小刻みなパイズリで重点的に責められる。

快楽の波は海のように変動し、まるで落ちて着く暇がない。

彼女の類い稀なる戦闘センスはここでも適用されるようだった。

「し、師匠！ それはずるいっ！」

「ずるくななどない。戦いとは己の長所を活かし、相手の弱みに漬け込む事だ」

悠然と快楽を与えてくる師匠に、僕は抵抗もできずただただ蹂躪されるばかり。

初めてとは思えない技巧とその圧倒的な質量を前に、もはや白旗を振るほかなかった。

「し、師匠……っ！ も、もう！」

「ん、そろそろ限界か？ なら、トドメとい

くか」

言って、師匠は胸を上下させる手を止めた。

「どうやら隠し玉を持っているらしい。とはいえ、怒涛のごとく押し寄せていた快感は一旦収まり、僕はほっと安堵の息を吐いた。」

それが間違いだった事には、すぐに気がついた。

「ふう」

吐息と同時に、はらりと服が腰の辺りに落ちた。

ビキニに似た白黒の衣服。

陰陽を模した留め具が、外されたのだ。

露出している。

ぶつくりとした、淡い桃色の乳首が。憧れ、焦がれていた女性の裸体。

突然目の前に現れたその光景に、思考回路がショートしかける。

「ふふ、さすがにこれだけでは出さなかったか。えらいぞ」

言葉を失ったこちらに笑みをこぼし、肉棒の先端をよしよしと指先で撫でてくる師匠。

彼女は今、その豊かな胸をさらけ出している。

衣服という支えを失い、その重みから先程より少しだけ垂れ下がって見える。

その有様はその双丘がどれほどの質量を持っているのかを視覚的に思い知らせてきて、より一層の昂ぶりをこちらに与えた。

「視線が釘付けだな。そんなに見たかったのか？」

「も、申し訳ない……」

「こら、そこに私の顔はないぞ？ 師匠と話

す時はちゃんと顔を見て話せ」

まったく、と呆れたように微笑されてもなお、その張りのある乳房から目が離せない。その凄まじい光景に圧倒されながら、一方で脳裏には疑問が湧いていた。

なぜ彼女は今更脱衣を？

こちらを昂らせるため？ いや、それだけではないはずだ。

じゃあ、何のために……？

「……！」

とある可能性に思考が至ったのと、彼女が両乳を持ち上げたのは同時だった。

「ま、待った師匠。それはダメだ」

「待ったなしだ」

「それをされたら、僕はそれ以外で抜けなくなってしまうかもしれない！」

「安心しろ。そうなったら私が面倒を見てやる」

お前さんは私の大切な弟子だからな、と言って。

「では、いくぞ」

号令と同時に、先ほどとは桁違いの快楽が来た。

「!? う、うああっ!?」

暴力的なまでの快感に、今日一番の声が出る。

両側から押さえる力を強め、師匠は乳圧を高めてきた。

むにゅうつといやらしく形を変えた乳は、視覚的にもこちらを昂らせてくる。

服を着たままでできない、本気のパイズリ。

これを行うために、彼女は脱衣を行ったのだ。

「や、やばい！ 師匠、これはやばい！」

「そうか、やばいか。お前のためにばななで練習した甲斐があった」

息ひとつ乱さず、穏やかな声色の師匠。

その眼下では激しく胸が動き、ローション

と我慢汁がばちゅばちゅといやらしく水音を立てる。

その動きに、先ほどまでの互い違いのようなバリエーションはない。

不要なのだ。

それほどまでに絶対的な快楽が襲いかかってくる！

「し、師匠っ！ もうっ！」

「ん、降参か？ 私の身体はいいのか？」

「降参する！ こんな、勝てるわけないっ！」

「そうか。なら……」

頷き、師匠はその速度と乳圧を一段上のものとした。

一度抜き上げられるたびに意識が飛びかける。

凄まじい快楽。まるで一秒ごとに稲妻に打たれているようだ。

「師匠っ！ 師匠っ！」

「そう何度も呼ばなくとも聞こえている。」

……まったく、愛い弟子だな、お前さんは

もはや彼女を呼ぶ事しかできなくなった僕を、師匠は愛おしげに見つめてくる。

その優しい眼差しと、過酷なまでに肉棒を抜き上げてくる豊満な双丘。

そのギャップに、僕は散々昂らされ。

「そら、イけ。イけ。……イけっ」

「ッ!!」

とどめとばかりに告げられた言葉責めに、いよいよダムは決壊した。

「くっ……射精するっ！」

「おっ……」

白濁した精が、勢いよく飛び出す。

粘り気を帯びたそれはどぶつと彼女の谷間を満たし、その狭間から溢れ出す。

「!? 師匠、今、出てるから……っ！」

「ん？ この方が気持ちいいんだろう？」

長い射精の最中も儀玄師匠による小刻みなパイズリは続き、甘やかな射精感が延長され

ていく。

「そら、最後の一滴まで搾り取ってやる」

「うああっ……」

最後にぎゅつと乳圧を強め、尿道に残った精液を搾り出すように両乳で挟み上げられる。

その白濁の量を誇るように鎮座した双丘を前に、肉棒はくたりと倒れ伏した。

……とんでもない量が出た。

魂すらも吐き出されたような、そんな脱力感が全身を襲う。

「すごい量だな。見ろ、胸の中がべとべとだ」

「も、申し訳ない……」

「いや、いい。お前さんが心地よかったなら何よりだ」

言って、子をあやすように肉棒を撫でてくる師匠。

「し、師匠。出たばかりで敏感だから……っ」

「口答えをするな。これは勝者の権利だ」

「え？」

「なんだ、お前さんばかりが褒美を得られると思っていたのか？」

呆けた顔をするこちらの眼前、師匠は立ち上がり、軽やかに衣服を脱ぎ捨てていく。

「し、師匠!? 何を……」

「お前さんが勝てば私の身体を好きにする。私が勝てばお前さんの身体を好きにする。公平な戦いだ」

「き、聞いてない！」

「聞かれてないからな。お前さんの甘さだ」

慌てふためく僕にしれっと告げて、全裸の師匠はこちらの身体に跨ってくる。

ゆさゆさと揺れるメロンの如き双丘に、肉棒へと血液が充填されていく。

「安心しろ。お前さんはただ天井のシミを数えていればいい」

「じよ、常套句まで学習済なんだね……あの、師匠」

「ん？ 内容の相談なら聞いてやらんでもないが」

「いや、そうではなくて……さっきの勝負、どちらが勝っても同じ事になってないかい？」

「……まったく、お前さんは」

ふと疑問に思った事を問うた僕に、師匠は溜息を吐いて。

「ん……」

「っ!?」

次の瞬間、こちらの唇を塞いできた。

「し、師匠!?」

「無粋な奴だ。お前さん、本当に修行への集中がどうかのために私がこままでしてやっと思ったのか？」

「！」

心底呆れたような声色に、ようやくその真意を理解する。

「まったく……弟子の下の世話をする師匠がどこにいる。師匠は心配になってきたぞ」

「う……申し訳ない……」

「まあいい。その純粋さもまた、お前さんの良さだしな」

愛おしげにこちらの頭を撫で、師匠は僕の瞳を見つめてくる。

「そういうわけだ。今夜は寝られると思うなよ？」

「お、お手柔らかに……儀玄さん」

「!……まったく、生意気な弟子だ」

睦言に師弟関係は似合わない。

そんな僕の想いを彼女はしっかりと受け取って。

「たっぷり励んで見せろ。……お前さんの身体が、私になじむまでな」

僕を抱きしめ、その身体を預けてきたのだった。



くれりて

P.25-
P.28

カリュドーンの子全員セフレ関係もちてえ……プルクラ、わかってるな…?



中村六翅

P.02-
P.10

エレンのタイツはやはり最高…と言いたいんだけど、今の私にとってビビアンのも同じくエロい…カリンちゃんもイーシェン師匠も描きたいな…っていうかゼンゼロのタイツキャラは多すぎじゃん!? 天国…至福…とりあえず誘ってくれてありがとうございます!



まるこし

P.29-
P.34

ゼンゼロイチャラブエロ合同にお誘いいただきありがとうございました! 儀玄師匠はこの見た目で意外とフランクな喋り方だったり、信頼度イベを進めるとちゃんと弟子想いだったりほんと可愛い…!



92M

P.11-
P.14

ワイもアストラと響き合いたいなア……



OMZR

P.35-
P.40

ゼンゼロ描くきっかけが無かったのでお誘い嬉しかったです!!!! ビビアン可愛いね… もっとゼンゼロのエロ欲しい!!!!!!!!!!!!



芝石ひらめ

P.15-
P.24

これを描かせていただけてる頃はちょうどゼンゼロ周年のころ。圧倒的めでたし。推しの雅さんを描かせていただいたので楽しんでいただければ幸いです



Negresco

P.65-
P.70

主催者さまに『竿役ふたなリンちゃんを描いていいですか!?』と伺ったら見事断られました(半ギレ)。ゼンゼロは規制だらけの現代で惜しげもなくゲリッゲリ揺らしてくれるたいへん有難いゲームです。猖獗を極めたソウルライクアクションで痩せこけた心を満足させてくれる接待仕様です。流行れ!



ほみなみあ

P.41-
P.44

1冊目に引き続き今回も参加させていただき光栄です!!
ゲームがおもしろすぎてファンアート描いてる暇がないぞ...
クールな面したムチムチ女がいっぱいで毎日幸せです。



扇のすけまる

P.71-
P.74

懺悔ポンプ「ンナナ... (私はボディーマーの隙間から見えるおっぱいが癖のせいでトリガーのおっぱいを少し盛って描きました)」



まめでんきゅう

P.45-
P.54

柳さん描かせていただきました! まめでんきゅうです。漫画を描くに当たって資料用にゲーム起動して柳さんを眺めてましたが立ち振る舞いから攻撃モーションまですべからくドチャシコで素敵な女性だということを再認識できました!

主催・編集 やもげ

P.75-
P.77

ゼンエロ2だァーッ!!!!
読みたかったやつ。ゼンゼロのエロ本って5000冊ぐらい欲しいので。
ゼンゼロ1周年おめでとうございます! めでたい! 魅力的なキャラがわんこ蕎麦のように出てきて嬉しい。
これからもゼンゼロを楽しんでいきたいと思えます。ゼンゼロって、オモロいので。営みがいいよね営みがね。同じ街で暮らしてるから因縁の相手とコンビニでばったり遭遇したりするのが他にない味でいい。
ご参加くださった先生方、無茶ぶりにも対応してくださったデザイナー様、いつも応援してくださる読者の皆様、本当にありがとうございました!



石端

P.55-
P.64

朱鷲さんのオートガード癖の話がずっとやりたかったので、実現できて良かったです。ただ自分が朱鷲さん描くとなんか毎回不憫度マシマシになる気がします。

ゼンエロ

ZENERO

ゼンゼロ
イチャラブ
エロ合同
R18

VOL.2

執筆者

92M	くれりて	まめでんきゅう
Negresco	芝石ひらめ	まるごし
OMZR	中村六翹	右端
菊のすけまる	ほみなみあ	

Special Thanks

やもげ文庫読者の皆様

デザイン

葵ゆきや [@yky_PT]

主催・編集

やもげ

Twitter(X): @yamoges

Mail: yamogeyamoges@gmail.com

(すべて50音順・敬称略)

サークル: 角砂糖

発行: 2025年8月16日 印刷: 緑陽社